

2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月12日

上場会社名 株式会社ネオマーケティング 上場取引所 東
 コード番号 4196 URL <https://www.neo-m.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 橋本 光伸
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 森田 尚希 (TEL) 03-6328-2880
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第2四半期の連結業績(2022年10月1日~2023年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	1,213	3.4	219	21.7	220	22.4	140	37.7
2022年9月期第2四半期	1,173	18.2	180	△26.8	180	△25.4	101	△36.6

(注) 包括利益 2023年9月期第2四半期 140百万円(37.7%) 2022年9月期第2四半期 101百万円(△35.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	56.77	55.42
2022年9月期第2四半期	41.00	40.48

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	1,502	592	39.4
2022年9月期	1,359	522	38.4

(参考) 自己資本 2023年9月期第2四半期 592百万円 2022年9月期 522百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年9月期	—	0.00			
2023年9月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年9月期の連結業績予想(2022年10月1日~2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,500	11.1	300	7.0	300	7.1	200	—	79.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期2Q	2,513,600株	2022年9月期	2,513,200株
② 期末自己株式数	2023年9月期2Q	61,324株	2022年9月期	24株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期2Q	2,469,282株	2022年9月期2Q	2,483,183株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「～Make Everyone Wonderful～私たちは人の心を満たす商品・サービスがあふれる社会を目指している」をビジョンに掲げ、企業のマーケティング活動を強力に支援するサービスを包括的に提供しております。

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行される事が決定され、加えて訪日インバウンド需要に回復の兆しが見られる等、行動制限の緩和に伴い経済活動の正常化に向けた動きが進展しました。一方で食品や日用品を含めた生活必需品の物価高傾向が継続し、円安進行による為替動向の懸念も残る等、経済の見通しは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループは製造業を中心に様々な業界のお客様にサービスを提供しており、特定の業種業態に依存した構造ではないため、新型コロナウイルス感染症の業績への影響は限定的なものとなっております。

中長期的には社会がWithコロナ時代に適合していく過程の中で、変化した生活者の意識や消費行動を捕捉したうえで、適切なマーケティング施策を実行していく必要性から、当社グループが提供するマーケティング支援事業の需要が継続して発生していくものと予想しております。

このような状況の中、当第2四半期は当社の認知向上施策やサービス開発、サービス提供リソースの強化に注力いたしました。ブランディング活動としましては、クライアント様の成功事例や当社の持つノウハウを記事コンテンツとしてサイトに掲載しリリース配信することで見込顧客獲得につながる導線を構築しました。

サービス強化の取り組みにおいては、原材料高騰の影響から値上げの検討が必要な企業様に対して、消費者が感じる価値を価格換算し適正な提供価格を導き出す「バリューベースプライシングリサーチ」をリリースいたしました。

サービス提供リソース強化の取り組みとしましては、Data Lab株式会社と業務提携しカスタマードリブンサービスにおいて、より迅速に数多く企画・設計・分析が実施できる体制を構築しました。

サービス開発においては、薬機法や景品表示法違反に最大限配慮した広告表現を追求されたいお客様向けに、広告表現の適合性をAIによって簡易的に判定出来る「セルフ薬機法チェックβ版」をリリースいたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,213,753千円（前年同四半期比3.4%増）、営業利益219,224千円（同21.7%増）、経常利益220,271千円（同22.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益140,181千円（同37.7%増）となりました。

なお、当社グループはマーケティング支援事業の単一セグメントであるため、セグメント毎の記載はしていません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間の資産につきましては、1,502,325千円となり、前連結会計年度末に比べ142,670千円増加いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金の増加142,422千円、差入保証金の増加に伴う投資その他の資産の増加236,505千円があった一方で、現金及び預金の減少229,847千円があったことによるものです。

(負債)

負債につきましては、909,832千円となり、前連結会計年度末に比べ72,429千円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加34,637千円、賞与引当金の増加19,506千円があったことによるものです。

(純資産)

純資産につきましては、592,492千円となり、前連結会計年度末に比べ70,240千円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益140,181千円の計上による利益剰余金の増加があった一方で、自己株式の取得による減少69,973千円があったことによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ229,847千円減少し、449,401千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは77,970千円の収入となりました。これは主に、売上債権の増加額142,422千円、法人税等の支払60,743千円があったものの、税金等調整前四半期純利益220,271千円、仕入債務の増加額34,637千円等があったためです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは248,394千円の支出となりました。これは主に、差入保証金の差入による支出239,368千円等があったためです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは59,422千円の支出となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出38,980千円、自己株式の取得による支出69,973千円があった一方で、短期借入金の借入れによる収入50,000千円があったためです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の業績予想につきましては、2022年11月14日の「2022年9月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想から変更はありません。

なお、当該業績予想は、現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	709,248	479,401
受取手形及び売掛金	283,448	425,870
仕掛品	26,284	36,979
貯蔵品	9,085	6,160
その他	56,119	47,546
貸倒引当金	△102	△110
流動資産合計	1,084,083	995,847
固定資産		
有形固定資産	30,835	28,877
無形固定資産		
のれん	146,522	136,230
ソフトウェア	6,886	13,536
無形固定資産合計	153,409	149,767
投資その他の資産		
差入保証金	17,640	256,823
その他	73,686	71,009
投資その他の資産合計	91,327	327,832
固定資産合計	275,571	506,478
資産合計	1,359,655	1,502,325
負債の部		
流動負債		
買掛金	81,495	116,132
短期借入金	300,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	50,302	67,510
前受金	17,223	11,788
未払法人税等	49,850	68,304
賞与引当金	—	19,506
パネルポイント引当金	74,751	80,798
その他	142,035	131,288
流動負債合計	715,658	795,329
固定負債		
長期借入金	116,990	110,802
資産除去債務	3,016	3,026
その他	1,739	675
固定負債合計	121,745	114,503
負債合計	837,403	909,832
純資産の部		
株主資本		
資本金	83,684	83,701
資本剰余金	284,090	284,107
利益剰余金	154,535	294,716
自己株式	△59	△70,032
株主資本合計	522,251	592,492
純資産合計	522,251	592,492
負債純資産合計	1,359,655	1,502,325

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
売上高	1,173,538	1,213,753
売上原価	608,581	634,857
売上総利益	564,956	578,895
販売費及び一般管理費	384,878	359,671
営業利益	180,078	219,224
営業外収益		
受取利息	3	2
補助金収入	800	1,191
その他	95	1,179
営業外収益合計	898	2,374
営業外費用		
支払利息	670	1,104
支払保証料	297	222
営業外費用合計	967	1,327
経常利益	180,010	220,271
特別損失		
固定資産除却損	1,064	—
特別損失合計	1,064	—
税金等調整前四半期純利益	178,945	220,271
法人税、住民税及び事業税	80,849	79,197
法人税等調整額	△3,720	893
法人税等合計	77,129	80,090
四半期純利益	101,816	140,181
親会社株主に帰属する四半期純利益	101,816	140,181

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	101,816	140,181
四半期包括利益	101,816	140,181
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	101,816	140,181

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	178,945	220,271
減価償却費	4,160	4,333
のれん償却額	17,519	10,291
固定資産除却損	1,064	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4	7
パネルポイント引当金の増減額(△は減少)	8,033	6,046
受取利息及び受取配当金	△3	△2
支払利息	670	1,104
売上債権の増減額(△は増加)	△154,147	△142,422
棚卸資産の増減額(△は増加)	△774	△7,769
その他の流動資産の増減額(△は増加)	1,430	9,984
仕入債務の増減額(△は減少)	35,281	34,637
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△29,069	3,331
小計	63,115	139,815
利息及び配当金の受取額	3	2
利息の支払額	△670	△1,104
法人税等の支払額	△61,012	△60,743
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,436	77,970
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△30,000	—
有形固定資産の取得による支出	△12,018	△240
無形固定資産の取得による支出	—	△8,785
差入保証金の差入による支出	△722	△239,368
事業譲受による支出	△55,290	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△479,961	—
その他	△3,886	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△581,879	△248,394
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	300,000	50,000
長期借入金の返済による支出	△61,160	△38,980
新株予約権の行使による株式の発行による収入	5,912	33
自己株式の取得による支出	△59	△69,973
その他	△499	△502
財務活動によるキャッシュ・フロー	244,193	△59,422
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△336,250	△229,847
現金及び現金同等物の期首残高	925,551	679,248
現金及び現金同等物の四半期末残高	589,300	449,401

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年11月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式61,300株を取得しております。この結果、当第2四半期連結累計期間において、自己株式が69,973千円増加し、当第2四半期連結会計期間において自己株式が70,032千円となっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。